

研修 分科会A「自分の考え，感じたことを表すために必要な『表す力』をつける」
～「どうぶつのはな」(1年)～

司会者	高・下笠居小	教諭		
提案者	高・新塩屋町小	教諭	高・木太北部小	教諭
	高・浅野小	教諭		
指導者	高・中央小	教頭		

1 提案の概要

(1) 主張点の説明

- ・ 学習指導要領の改訂を受けて，低学年では，音読，文章中の大事な言葉や文を書き抜く活動を大切にしていきたい。
- ・ 知識・技能の習得・活用のためには，低学年段階から全体構成をとらえる力や筆者の論理的な述べ方に気付く力を身に付けることが大切である。

(2) 実践発表

全体構成を意識した読みの工夫

- ・ 一人ひとりの思考の場を保証するためにカード操作を取り入れ，交流に活用する。
- ・ 文章を読む行為が，内容の楽しさやおもしろさだけでなく，読み手に対する伝え方を読むことの楽しさを体験できるようにする。
- ・ 写真と本文をつないで読むことで，正しく文や言葉を読み取る。

<演習> 「ツリー図の作成」

1文1文に段落番号を打った文カードを用意する。1文ごと切り分ける。

教科書のかば，はりもぐら，ぞうのページに，関係する文カードを貼る。

ワークシート に鼻の特徴や便利さ，食べ物・すみかの表に整理しながら文カードを貼りかえる。

ワークシート のツリー図枠に段落番号を書いてツリー図を完成させる。

どこに入るか分からない段落は，みんなで考える。

動作化を取り入れた読みの工夫・・・<正しい読み取り，意欲化を図る>

- ・ 言葉のイメージを広げるための問いかけ（動作化の前） 焦点を絞った動作化
- ・ 相互評価を取り入れた動作化 友達の動作を見ることで動きと言葉を結びつける
- ・ 模型による操作（動作化による表現の補足）

映像（写真・VTR）を活用した読みの工夫

- ・ 視点を絞って見せる 学習の焦点化
- ・ 映像を言葉と結び付ける
- ・ 指導のねらいに応じて活用する場面や方法を考える

2 成果

- ・ 低学年段階における全体の文章構成をとらえさせる指導について，演習を通して具体的方法を理解し，児童への支援の在り方について情報交換することができた。
- ・ 読みを深めるための動作化，映像資料を活用する時のポイント等について考察することができた。

3 課題

- ・ 教材文の文型（問いと答え形式）を活用してペアで伝え合うことにより，文型を理解し，発展として他の動物へと転化させるということも考えられる。

自分の考え，感じたことを表すために必要な「表す力」をつける
どうぶつのはな（1年）

主張点

1 学習指導要領の改訂を受けて

読み取ったことをもとにして自分の思いや考えをまとめるためには、教材の特性にあった学習活動を設定することが必要である。

2 知識・技能の習得，活用のために

説明的な文章を読み取る力を身に付けるためには、低学年の段階から全体構成を意識した読み取りの学習を行うことが必要である。

読み取る際、教材文に応じて様々な活動を実施し、経験を積ませることは大切である。しかし教材の特性を見極めて学習活動を設定することが大切である。

映像資料を用いる際、児童に何をつかませたいか意図を明確にし、視点を絞って提示することが大切である。

1 全体構成を意識した読みの学習

（単元の目標）

文章のまとまりを意識しながら，書かれている事柄を正しく読み取る。

(1) 本単元でつきたい力を考える

<教材分析・子どもの実態>

- ・子どもの興味を引く動物が話題で，インパクトのある導入
- ・文章構成がシンプルでわかりやすい
- ・各意味段落の述べ方が同じ
- ・効果的な写真
- ・初めての説明文...読み方を学びの技術としてもち得ていない
- ・言葉に対する意識が低く，具体的なイメージを言葉で表現しにくい 等

<新学習指導要領>

- 「C 読むこと」(1)
- ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること
- イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。
- エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて，自分の思いや考えをまとめ，発表し合うこと

知識・技術の習得と活用
思考力・判断力・表現力の育成

<高松市研究主題>

真に生きて働く国語力を育てる国語科授業の創造

- 自分の考え，感じたことを表すために必要な「表す力」をつける -

内容のまとまりを読み取り，全体の文章構成をとらえる力

各意味段落における問い，答え，鼻の特徴，鼻の便利さを表に整理することで，内容を正しく読み取り，筆者の論理的な述べ方に気付く力（説明された事柄を正しく読み取る論理的思考力）

読みを深めるために動作で表現したり，映像と言語を結びついたりしながら読む力

自分の読みや気付きをペア対話で友だちに話したり，短い文に書いたりして表現し，伝える力
（表現力）

(2) 主な単元計画

		主 な 学 習 活 動
一 次	1	「はじめの部屋」(P52, 53)を見たり読んだりしながら感じたこと思ったことについて話し合う。
二 次	2	ツリー図にまとめる。
三 次	3 ~ 5	「かば, はりもぐら, ぞうの部屋」を読み取り, 便利だと思うところをペアで伝え合う。

(3) 指導の工夫

二次...説明文の文章構成を学習する。

【目標】 音読をしたり写真と結び付けたりしながら文章のまとめ(動物ごと)を捉え, 「動物の性質」「鼻の特徴」「便利な点」に整理して説明の順序を正しく読み取る。	
学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 援 助
1 書かれている内容を意識しながら一つ一つの語をはっきり発音して音読する。 (学習課題の確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し音読をし, 文章に慣れ親しんでおく。 ・「かば」「はりもぐら」「ぞう」の三つの動物の鼻の例が挙げられていることを写真で示しながら確認する。 ・動物ごとにどんな鼻かを読み取るために, 文章も三つの例にわけよう(「かばのへや」「はりもぐらのへや」「ぞうのへや」にわけよう。)という学習課題を導き出す。
2 一文で書かれた形式段落のカードを, 例として挙げられた三つの動物ごとのシートに分類する。 (1) 個人 (2) 全体交流	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の写真が印刷されたシートを用意しておく。 ・カード操作をすることによって一人ひとりに思考の場を保証する。 ・具体的な動物名が出てこない段落や問いの段落は, 写真と結び付けて考えるよう助言する。 ・個人の考えをシートに表現してから全体交流で自分の読みの確認をし, 学び合いの基礎的な力を育てる。
3 ツリー図にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・p 5 2 は序論(話の始まり)として教師が指導する。
4 文型に着目しながら三つの項目(「動物の性質」「鼻の特徴」「便利な点」)に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って書き方を指導する。 ・かばを例に挙げながら三つの項目を導き出す。 ・板書で三つの項目別に色分けしたカードに変えて整理し直すことにより, 説明の順序を意識できるようにする。
5 学習のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人, 項目を入れたシートに整理し直し, 学習のまとめをする。

(4) 指導の重点

- ・一文一文に番号を打った文カードを用意し, カード操作を取り入れることにより, 基本的な説明文の読み方を指導し, 一人ひとりの思考の場を保証した。また, 自分の読み取りを共通の表現物に表すことになり, 相互交流の観点をはっきりもてるようにした。
- ・文章を読む行為によって, 内容の読み取りにおける知識の獲得に楽しさやおもしろさがあるだけでなく, 読み手にどう伝えているかを読むことの楽しさを体験できるようにした。文章を文字を追って音読するだけでなく, 表に整理していく過程で明らかになる筆者の述べ方の工夫に対する驚きや発見が次の説明的文書を読むときの意欲や読む技術として発揮できる力となる。
- ・写真と本文をつないで読むことを通して, 正しく意味段落や指示語の指す言葉を読み取ることができるようにした。(非言語情報からの読み取りの力)

2 動作化の工夫

説明文を読むことのスタートである本単元では、以後の学習の基礎となる

新しいことを知る楽しさを感じる 書かれている事柄を正しく読み取る

という説明文の読みの基礎を培っておかなければならない。そのためにも、『動作化』は、効果的な方法である。しかし、安易に動作化をさせると、読みからそれたり、言葉の意味が正しくとらえられなくなったり、逆効果になる場合もある。つまり、教材文を正しく、楽しく読み取るには、どの言葉を、どのように『動作化』させるかを十分吟味して行う必要がある。

(1) 動作化

動作化をさせる前に言葉のイメージを広げるための問いかけ

T：どれくらい長いの？

C：はりもぐらよりながい。

C：足につくくらい。

T：何を食べるの？

C：草や木の葉っぱ。

T：それはどこにあるの？

C：高いところや足元。

・

・

相互評価を取り入れた動作化

自分のうでを使ってぞうさんのはなができそうだ。
えさをたべるときのはなの動きがわかったぞ。やってみたいな。

イメージ化・意欲化



児童同士がお互いの動作化を見合い、正しくできているかどうかを考え、正しい読みにつなげる。

T：友達のどこが上手でしたか？

C：「し」みたいにまげているところ。

C：頭の上まで手をのばしているところ。

C：くねくねさせて頭の上から水をかけているところ。

T：　　さんは「プシュー」って音まで出しているね。

具体化・言葉の理解

成 果

- ・ いきなり動作化をさせるのではなく、「ながい」「まがる」を「どれくらい」「どんな動き」かを問いかけることで具体的にイメージがわき、焦点を絞った動作化につながる。
- ・ 友達の動作を見て、上手な動きを発表させることで、動きと言葉を結びつけることができる。
- ・ 低学年の児童にとって、動作化は言葉を正しく理解しイメージを広げる支援として有効である。しかも、意欲的に楽しく学べるよさもある。

課 題

- ・ 象の鼻の動きをうでで表現するには限界がある。

(2) 模型による操作

動作化を補うために模型の操作を行う。



教師の支援として用いた模型を客観的に操作させてみることで、うでの動きでは不十分なところが可能になる。

T：ぞうさんにきてもらいました。

えさをたべたり、水をあびたりしてもらいましょう。

C：頭よりもずっと上のはっぱもたべられるよ。

C：体の上だけでなく、足のほうも体の後ろのほうも水をかけられるよ。

C：体全部にかけられるね。



お外は暑くて、ぞうさんの体も熱くなるから、動物園の人もシャワーでぞうさんの体全部にシャーッって水をかけよった！

経験・体験と
つなく

- ・ 「まがる」という動きのイメージを全員が共有できることによって、言葉を正しく理解することができる。

(3) 考察

- ・ 正しく、豊かな言葉の理解に動作化は有効である。(高学年でも必要である。)
- ・ 『教材文の言葉 イメージ化 動作化 評価(言葉に返す) 足りない部分・広げたい部分は模型や写真、絵などの活用』の流れのように、必ず動きを言葉と照らし合わせながら、理解することが言語力の獲得になるのではないだろうか。
- ・ 動作化の他にも正しく読み取るための支援はある。(音読・紙芝居・劇化など)しかし、教材の特性に合った表現方法を考えなければならない。

3 映像(写真・VTR)の活用

文章を読み深める支援の一つとして、写真やVTR等の映像の活用がある。

主な活用方法として

- ・ 読みを深めるための補助的資料
- ・ 言葉からさらにイメージを広げるなど読みを発展させる
- ・ 映像そのものを読みとる

などが挙げられる。

最も重要なことは、「その映像を活用することによって児童に何をつかませるのか。」という指導の意図を教師が明確にもつことである。



(1) 視点を絞って見せる

教師は「これをつかませたい。」というねらいにそって、映像を見る視点を児童に明確に示すことが大切である。そうでなければ、児童はその映像全体を漠然ととらえてしまい、学習が焦点化しにくくなる。あえて映像をさまざまな角度からとらえさせ、興味・関心を広げようとする場合を除き、やはり見る観点を絞って見せることが重要となる。

(2) 映像を言葉と結びつける

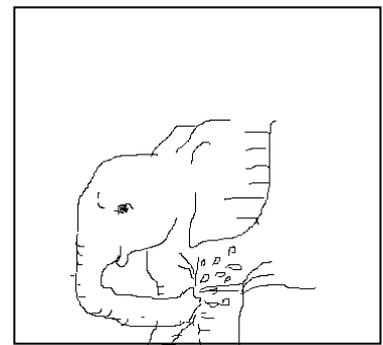
本文中の言葉と結びつけて映像を見ることによって、読みを深めることができる。

教科書P59の2枚の写真は、本文中の

「はなをじょうずにつかって」・・・えさをたべたり
・・・みずをあびたりします

という言葉を表したものであり、児童は言葉と映像を結び付けて考えることで具体的なイメージをもつことができる。

また、VTRは写真のような静止画と違って動きがあり、象の鼻の動きなどをつかませる上においてさらに効果的である。象が鼻を使って足

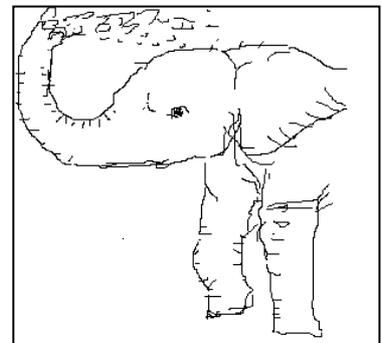
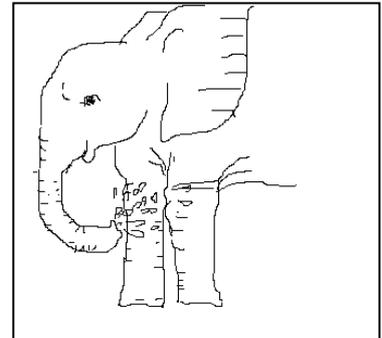


や背中に水をかけたり，えさである干し草をかき集めたりするVTRは，象の鼻が実際にどのように動くのか，はっきりとつかむことができる。また，VTRを見ることで，「いろいろなむきにまがります」という言葉についてもイメージを広げることができる。

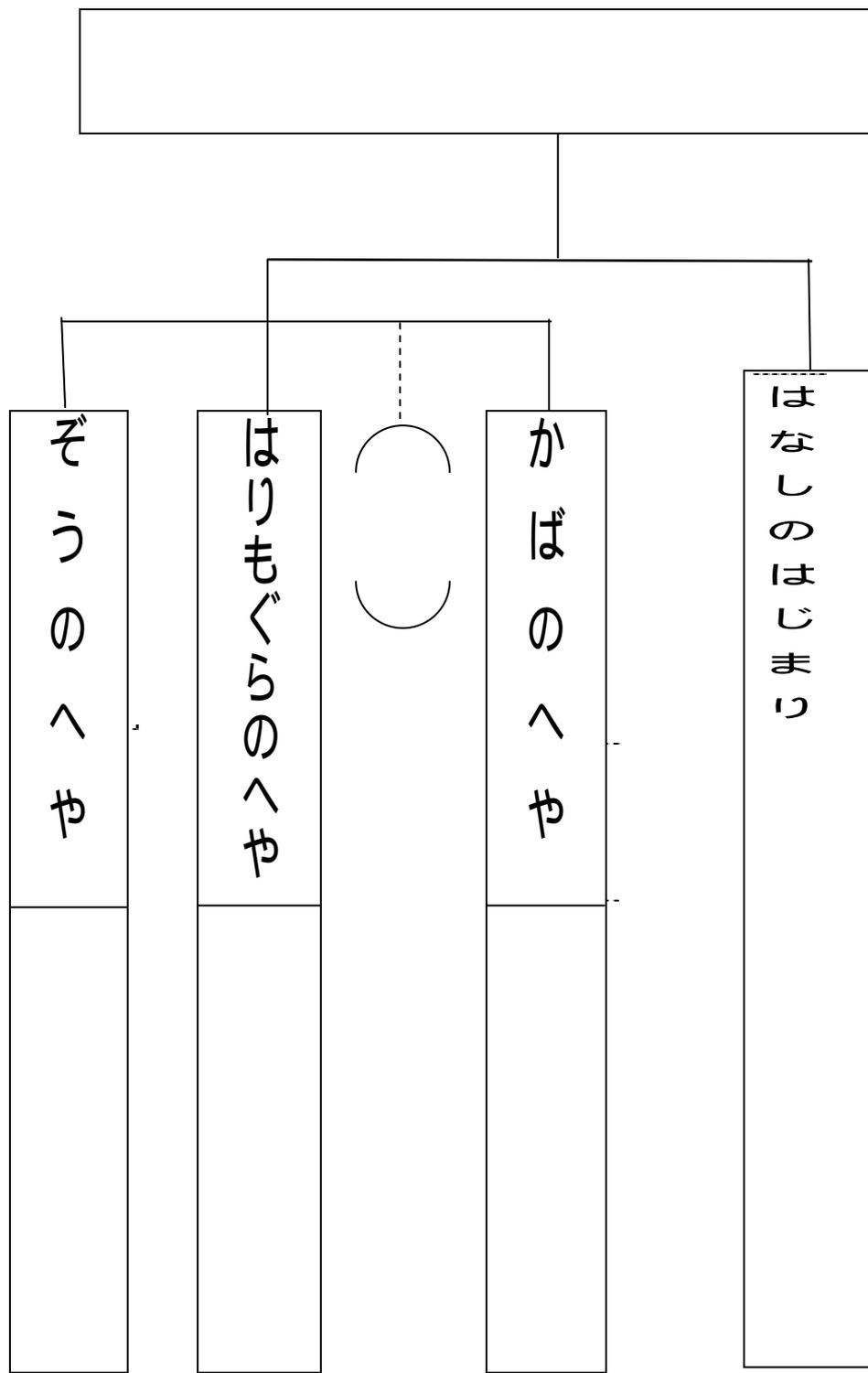
(3) 映像を活用する場面

映像を，授業のどの場面で提示するかも重要なポイントである。内容について興味・関心を喚起するために活用する場合は，単元や授業の冒頭において見せることが考えられる。また，一つの言葉についてイメージを膨らませることをねらって，その言葉と結びつけながら映像を活用する場合もある。さらに読みを深めようとする場合には，身体表現によって読みを深めた後，自分の読みをさらに発展・評価させるために映像を使う場合も考えられる。

その映像から何をつかませたいのかという指導のねらいによって，活用の場面や仕方も当然変わってくる。適切な場面で活用することが映像の効果を最大限に引き出すことにつながる。



【興味関心を喚起するための活用】	【一つの言葉をイメージ化させるための活用】	【読みを発展・評価させるための活用】
<p>内容の紹介</p> <p>映像</p> <p>感想発表</p> <p>内容を焦点化 興味関心</p> <p>読み</p>	<p>読み</p> <p>キーワードとなる言葉についての話し合い</p> <p>映像</p> <p>言葉と映像を結びつけての話し合い</p> <p>読み</p>	<p>読み</p> <p>身体表現によるイメージ化</p> <p>模型等によるイメージ化</p> <p>読み</p> <p>映像</p> <p>読み</p>



『どうぶつのはな』演習用ワークシート

(はなのべんりさ)	(はなのとくちょう)	(すみか・たべもの)	
			か ば
			は り も ぐ ら
			ぞ う

なまえ ()